

今川やき

今川やき
このごろの言葉はあり

かない
もう戻って居りのかな
七年か

たいこやきといろのそとろつた事がある
今

川やきの味だつた

当時三ヶ月間つた
お金をりた
たき新聞

紙のフク口たいておる称に少たす
そ水か

私の役目だつた

途中の一時半
五ヶ月の最終電報が
かすかると
な

しよいと存する
のこつた
小長箱の
といたもの

アムニオン ^{今以加寄をゆく鉄板} コニ口 炭 その地の道 ^具 興をさす

かえる とかくと 竹竿をうだがそこ迄行く

が容易でない

ひる間、母がさつまいも、小豆、切りカリシ

等であんこをあんこを煮て、皮になる小麦粉

物の交換 ^{カン} で得たものをといたもうをつくる

まずさつまいもの買出しからハチマキ

川越 ^{川越} 川越 川越 道を出りてた

お母も下も売ってはおくれなさい、お母も

お中 ^{お中} さいとう 不金以外に母の着物がへって

あまの

どうすりやいはいのうと歌があるが

どうすりやいはいのうと生活たうた

寒空に今川やきでやうて行とうとすうあは

今ごろはるのつく立川たうたと思う

B 29 でやう野原 飛から歌あが 15分程かか

るが、歌のうを欠ては何か歌のふいふが

えまわや、やうあちたかべ、とまへ、やう

まろこわわ石水道、海やのとやうた人、そんな

ところで今川やうはうわい、我知事はやう

ずには9こつた。い4がさうおかゆだ。そ9い

けがまが90度ちかくまわつてゐる。さるす寸

笑だ ゆつによる 印がまをさむつかつたが、あつたと思

直 今 今川やまをろろには高層へ行くわけには

しかし 中 やつたきい。残つたといひうあり急に去

て柔石や子市、之高層のところに立つレリ並

んでい 集 る。そに9はじに今川やまをろる場所

を が といふ事 が 千ギヤの陣可をもうう、本當のほ

レの一笑 北がせがふきあやう せし の くや女 の 場助 だ だつた

そ9場助の母と妹と三人で立つ、母が

う

このうのきんし（着）箱で今川かまをかいたる

母は家を買（う）ころ外地から着物を少し送った

い庭が「大」しまつ「志」など「ふ」だん着は「か」の「きい

も「を」買（う）「ず」なく「ち」の「だ」

妹は小学校一年生、明日の学校を「考」え、「社」ハ「晴

ごろ家へ送ったいく、そ「一」つ又「や」み「節」へ「ま」ど

「う」つ「果」る「の」に「が」家へ「か」え「る」時「二」人で「せ」い「な」い

を「未」け「つ」上「に」入「れ」食「べ」な「ら」か「え」つ「た」二「人

の「内」緒「の」す「う」ん「浮」柴「し」か「つ」た

妹「と」二「人」で「命」り「や」き「を」た「べ」て「み」た「い」